

希望

チューリツヒ日本人学校便り

平成 27 年 6 月 15 日発行

第 12 号

発行人 校長 鈴木史良

交通安全意識の確実な向上

—— 地元の交通警察官を迎えての講義と実地指導 ——

6 月 12 日(金)に 2 年ぶりの「交通安全教室」を実施いたしました。目的は、日常での交通安全に対する意識を高めるとともに、安全な歩行の仕方・自転車の乗り方について学習することです。

講師としてお招きしたのは、交通警察官のマッチンガーさん。日本人学校には過去何回か指導に来たことがあるそうです。内容は低学年の子どもたちを対象にした街頭歩行指導、中学年以上の子どもたちを対象にした自転車走行指導、それに全学年を対象とした交通安全についての講義でした。

3 校時に低学年の街頭歩行指導からスタートです。2 校時の授業を終えた子どもたちが職員室前廊下に集合しました。マッチンガーさんは優しい口調で子どもたちに語りかけ、現地校の子ども

たちも登下校時に使っているという反射帯を、一人ひとり首から掛けてくれました。

子どもたちは 2 人組で手をつなぎ、道路脇の歩道を 2 列で歩きました。注意点は車道から離れて歩くこと、路側は年上の子どもが歩くことです。次に横断歩道を使って、道路を渡る練習をしました。大事なポイントは、渡る前にしっかり止まること。左右をよく見て渡ること。車が止まったら、片手をあげて感謝の気持ちを伝えて渡ること。渡る時とんだり跳ねたりするのは NG です。子どもたちは何回も横断歩道を往復し、安全に歩行する技術を向上させていきました。

4 校時は、3 年生以上が図書室に集まり、マッチンガーさんから交通安全についての講義を受けました。大型テレビ画面にスイスで使われている交通標識が映し出されると、マッチンガーさんは子どもたちに問い掛けながら、標識の意味を教えてくださいました。続いて、自転車の走行レーンについての話でした。自転車は車両であり、自転車通行可以外の歩道を走ってはいけないこと。特に左折の仕方には、特別注意が必要なこともわかりました。十字路の場合、車線が複数ある場合の停車位置、ロータリーに侵入する場合、ロータリーの中を走る場合の注意事項等々は、大人が聞いても参考になる話でした。

昼食後、各自自転車を準備し、校庭でスラロームや片手をあげて方向を指示したり、加速から急停止したりする基礎訓練をおこないました。

その後、マッチンガーさんの自転車を先頭に



横断歩道を安全にわたる子どもたち



マッチンガーさんの交通安全講義

公道実習が始まりました。全員が耳にレシーバーをつけ、マッチンガーさんの指示を日本語に通訳した言葉を聞きながらの運転です。ロータリーを使っただけの練習は渋滞の原因になりましたが、マッチンガーさんのおかげで何のトラブルもなく、無事に終了しました。自ら率先して動き、やさしい言葉で子どもたちに語り掛け、交通安全の大切さを教えてくれたマッチンガーさんには、何度お礼を言っても言い足りないくらいです。最後に持参した大きな黒鞆の中から出てきたものは、子どもたちへのプレゼントでした。

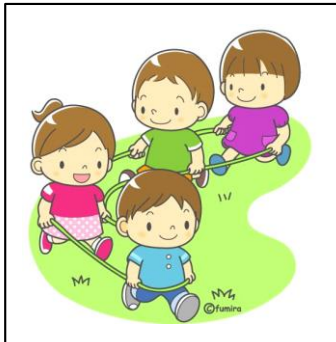


校庭での自転車基本練習

楽しみな水泳学習（日本人学校隣接の市民プール利用）

先週の木曜日、5・6年生の水泳授業に同行しました。ウォーミングアップの後、25mプールをクロールと平泳ぎで何度も往復し、個人別の目標を達成していました。

詩を楽しむ



手のひらを太陽に

やなせたかし

ぼくらはみんな 生きている
 生きているから 歌うんだ
 ぼくらはみんな 生きている
 生きているから かなしいんだ
 手のひらを太陽に すかしてみれば
 まっかに流れる ぼくの血潮
 ミミズだって オケラだって
 アメンボだって 生きているんだ
 みんなみんな 生きているんだ
 友だちなんだ

六月に入り、音楽室からだろうか、子どもたちの元気な歌声で、懐かしい歌が聞こえてきた。
 ♪ぼくらはみんな 生きている
 生きているから 歌うんだ♪
 この歌をはじめて耳にしたのは、小学校三、四年生ごろ見たNHKの番組「みんなのうた」だった。今から五〇年も昔のことだ。歌い手の明るい歌声とテンポよい曲調、そして何と言っても「手のひらを太陽にすかしてみれば まっかに流れるぼくの血潮」という歌詞が気に入った。さっそく太陽に自分の手をすかしてみた覚えがある。その当時は手のひらを走る血管に真っ赤な血液がドクン、ドクンと流れるようすが見えたような気がしたが、今そうやって何も見えないのは、どこかに私の血潮を置き忘れてきたためなのかもしれない。
 作詞したやなせたかし氏は「アンパンマン」の生みの親になった。作曲のいずみたく氏も歌謡界で心打つ名曲を数多く残してくれた。